

## 平成23年度 しらとり 事業報告書要約

平成23年度の概況	<p>1 しらとり概況</p> <p>23年度は子ども家庭支援センターは、子育てひろば[しらとり]としてスタートした。「たち」ひろば事業とは違い地域密着の、ほっとした雰囲気のひろばを目指した。サービス事業ではショートが増大した。また、母子生活支援施設では、一時定員を大きく下回り暫定定員の心配もしたが、保育を充実したことで、若年母子や再統合の利用者が増えた。</p>
	<p>2 母子生活支援施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>退所世帯 9(公営住宅入居1・結婚1・引き取り1・世帯変化2・生活課題4)</li> <li>入所世帯11(夫とのトラブル2・養育困難4・住宅困窮等4・その他1)</li> </ul> <p>若年母子や精神疾患の母親が増え、再統合のケースが増えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度在籍28世帯中、府中市からは1世帯・他の保護実施機関は16市に及んだ。</li> <li>サービス自己評価(12月実施)、第三者評価(11月実施)</li> </ul>
	<p>3 支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規相談件数63件(前年は79件、うち虐待0件、前年は0件)</li> <li>しらとりひろばは登録者数288名、延べ利用者数は5,871名であった。</li> <li>オープンルームは1,547名の親子が参加。前年より415名減少した。</li> </ul> <p>主にしらとり近隣地区(武蔵台・西原・北山・栄・本宿・西府)からの参加が多いが、昨年度に引き続き、国分寺市や国立市からの参加も増えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>NPは秋の1クールのみ開催(会場:しらとり)。約半年後の3月に効果定着を目的にフォローアップセッションを1回実施(延べ95組198名参加)。</li> <li>ミニルームあいあいは5年目の実施。毎月1回と、応募多数によるフォローの会1回含め全13回実施、計106組、213名が参加した。</li> </ul>
	<p>4 サービス事業</p> <p>①トワイライトステイ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間延2,291名(実人員88名)前年実績1,489名に比べ154%(802名増)になった。</li> <li>年度後半より、小学生の利用が増加した。学童クラブ・放課後子ども教室・自宅迎え等拡大している。理由はロコモとのことで、利用地域は広がっていない。</li> <li>トワイライト利用は2歳～12歳であるが、「小学1年食事なし」の利用が増えている。</li> </ul> <p>②ショートステイ事業</p> <p>延人員は230名(宿泊163名 日帰り67名) 前年実績191名に比べ120%となった。実利用人数は30世帯41名</p> <p>③母子(父子)緊急一時保護事業</p> <p>実人員13名で延47名が利用した。(前年実績・実人員15名・延べ247名に比べ19%となった)実利用人数は4世帯13名</p>

平成23年度の課題	<p>1 利用者が日々安心・安全に生活および利用できる建物を維持管理する。「子ども」が安心して、健やかに育つ環境を最重視する。</p>
	<p>2 東京都の動き―暫定定員の問題と広域利用の促進が今年度の課題として取り組まれた。</p>
	<p>3 白鳥寮における若年・外国籍・精神的課題・再統合といった入所世帯への対応強化</p>
	<p>4 23年度は入所問い合わせが減り、平成24年3月には18世帯(定員20世帯)となる。その後は、入所問い合わせもでてきたが、空き室がでている状況である。</p>
	<p>5 府中市における新たなサービス事業の構築、展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①子ども家庭支援センターの主事業に子育てひろば事業を開設した。</li> <li>②府中市や他機関と連携し、利用者ニーズにあったサービス事業を検討した。</li> </ul>
	<p>6 築16年を経た建物の修繕に備える整備計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①設備の老朽化への適切な対応(23年度も助成金により冷温水器の改修ができ)</li> <li>②中長期経費計画の策定</li> </ul>
	<p>7 自立支援計画票をもとにしたチームケアで利用者支援を行った。</p>
	<p>8 多様な課題を抱えた利用者変化に伴い、現状にあった「あるべき施設」の検討を行う。</p>
	<p>9 サービス自己評価・第三者評価結果を踏まえ、職員連携と組織力の強化を図った。(23年度事業評価分析シート 課題より)</p>

		サービス利用・提供状況	平成23年度事業計画の執行評価
運営・管理		<p>1 常に「子ども」が生活する場であることを意識し、「安全・安心」な建物の維持管理を行った。今年度は乳幼児の増加が著しく、共有部分の補修・改修を助成金により行った。</p> <p>2 利用者及び職員の健康管理・そして心のケアに配慮した。</p> <p>3 東日本大震災を受けて、施設間や地域と連携した防災対応策を検討した。</p> <p>4 法律改正や制度に対応し、法人の理念に沿い自らの使命を果たすため、研修を行う。第三者評価および自己サービス評価を行い、利用者視点のサービスを推進した。</p> <p>5 家族支援システムを活用し、利用者支援の充実を図った。</p>	<p>1 防災訓練を毎月実施し、職員及び利用者の防災意識や技術の向上に努めた。また、地震対策等の検討も行った。</p> <p>2 職員へ健康管理および心のケアについての研修を行った。</p> <p>3 東日本大震災を経験して、施設における防災対策の徹底を図った。</p> <p>4 法律改正や制度を理解し、自らの使命を果たすため、研修を行った。第三者評価、サービス自己評価を実施し、利用者視点の改善を図った。</p> <p>5 家族支援システムを活用した利用者支援が不十分であった。</p>
	府中市委託事業	<p>子ども家庭支援センター</p> <p>1 今年度より府中市子ども家庭支援センター「たち」との役割分担を明確にし、小地域密着型の子育て支援を実施した。</p> <p>2 日祭日及び年末年始を除く毎日、「しらとりひろば」を10時から16時まで行った。</p> <p>3 子ども家庭支援センターしらとりは、たちに相談を集約し、「たち」が閉館中の夜間で、緊急の電話相談は継続したが、相談件数は減少した。</p> <p>4 新規相談件数は63件(前年79件) うち虐待相談は0件(前年0件)であった。(サービス問い合わせ180件を除いている)</p> <p>5 オープンルームは年24回開催(あおぞら1回-武蔵台公園裏)。延べ1,547名が参加した。</p> <p>6 NPプログラムは秋期1回実施(9月～11月・3月フォローアップ)計10組21名(延べ95組198名)の母子が参加した。</p> <p>7 ミニルームあいあいは、子どもの対象年齢を限らず「産休・育休ママ」「Around40(アラフォー)ママ」「0・1歳児の地震対策」などの会を実施した。</p>	<p>1 たつちとの役割分担を明確にして、相談は「たち」に集約し、しらとりは地域のセンターとして、予防的支援を施行していくために契約内容も変更した。</p> <p>2 通常開設のほか「子育てとわらべうた」やチャリティーバザーなど「たちひろば」事業とは違う企画、講座をひろば事業の中で行った。</p> <p>3 夜間緊急の電話相談については、相談件数の有無に関らずたちで毎木曜日に行われる受理会議に都度報告した。</p> <p>4 22年度より統計の数に問い合わせを別途追加し、しらとり独自の統計とした。</p> <p>5 オープンルームは、常設の交流の場であるひろばの開設が影響したためか過去5年で最少の延べ参加人数となった。</p> <p>6 今年度は1クールのみ開催。競争率2倍の応募があった。</p> <p>7 参加者に好評を得た。特に、「生まれ！Around40ママ」の会は定員の倍の応募があり今年度もフォローの回を臨時的に実施した。</p>
母親		<p>1 利用者が自立支援計画に基づいた、目標を達成できるようにチームケアを中心とした支援を行った。</p> <p>2 利用者が気軽に話しに来れる場所を定期的に提供し、利用者とのコミュニケーションの向上を図った。</p> <p>3 心身の健康促進の為、年2回の健康診断の実施と新入所者には心理ガイダンスを行った。</p>	<p>1 定期面接を実施し自立支援計画を作成を行った。また、母子支援員・少年指導員・保育士の3名のチームで担当しそれぞれの立場からケースを検討した。</p> <p>2 日曜日に「おやこ☆ひろば」「おやこ☆プレイタイム」を行い、利用者が話しに来れる場所と時間を提供した。</p> <p>3 カウンリングを必要としている利用者には心理職員が心理ガイダンスを行い、必要に応じて専門機関への紹介を行った。</p>
	母子生活支援	<p>学童</p> <p>1 子どもたちの居場所作りのため、学童保育を行い、また、夕方の時間には子どもたちが自由に使える場所を確保した。</p> <p>2 食事や学習などを通して、生活力の向上となるような支援を行った。</p> <p>3 子どもたちの個性や成長に合わせ、一人ひとりに合った支援を行った。</p> <p>4 母子支援員、保育士、心理士と連携し、支援を行った。</p>	<p>1 学童児の減少と使用場所の変更などの理由から、学童保育のあり方を見直し、3年生以下の預かりとした。夕方、子どもたちの居場所作りのため、フリースペースを設け、子どもたちがリラックスして過ごせる場所と時間の提供をした。</p> <p>2 日々の学習支援やおやつ・食事作りなど子どもたちと一緒に行った。</p> <p>3 個別に話す時間を多く設け、個々に合った支援を行った。特に、学童で過ごさなくなった高学年との個別対応に力を入れた。</p> <p>4 チームケアの機能がうまく機能せず、連携が難しかった。</p>
保育		<p>1 異年齢児保育の中、安全を確保しながら心身の発達につながる保育を行った。</p> <p>2 施設内保育児増加の為、母子支援員や子どもチームとして連携し環境を整えた。</p>	<p>1 基本的な生活習慣を大切に、心身の健やかな成長につながる保育を行った。</p> <p>2 保育対応に追われてしまい、地域保育児への支援が薄れてしまった。</p>
	連携	<p>食事</p> <p>1 定番の献立を継続しつつ、季節の食材を献立に取り入れた食事を提供した。</p> <p>2 年齢や体調に合わせた食事や、食物アレルギーの代替食の対応を行った。</p> <p>3 衛生面の徹底を行った。</p>	<p>1 なじみの多い食材や旬の食材を使用することで、食への関心を高め、食べる意欲が持てるよう配慮した。</p> <p>2 食物アレルギーの代替食は、単発的で数としては少なかったが、必要に応じて対応した。</p> <p>3 調理室の清掃を入念に、害虫駆除もしっかりと行い、衛生面の注意事項を再度徹底した。</p>
サービス事業		<p>1 トワイライトは年間で延2,291名(前年比802名増) 前年度に比べ154%に増加した。</p> <p>2 ショートステイは、実績230名(前年191名)リピーター利用者が多く前年比120%であった。</p> <p>3 母子(父子)緊急一時保護事業は、4世帯実人員13名で延べ47名利用した。</p>	<p>1 病院関係の利用者が増加したこと、不況や大震災の影響が回復し利用人数が増加した。</p> <p>2 ショートステイでは、保護者の出張、保護者等の入院看護の依頼が多かった。</p> <p>3 今年度は4～8月までの短期利用で、9月以降は利用がなかった。</p>